

「県政ガイドあいち 2022」表紙デザイン審査会講評

総評

伊藤 勇吉 審査員

本年度もたくさんのデザインが集まり、とても楽しい審査となりました。愛知県のイメージが一目でわかるよう表現するのは、とても難しいです。いろいろなモチーフや切り口でアイデアをまとめ、形にする。どんな内容がいいか？どんな表現がいいか？応募された学生たちの葛藤が面白い作品として現れています。若い新しい感性のデザインも増え、とてもいい作品でした。

佐藤 直樹 審査員

応募要件に示された「愛知らしさ」を表現することに相当腐心されたのではないかと推察します。わかっているようでわからない、知っているようで知らない「愛知らしさ」。この県政ガイド表紙デザイン審査会は、若い皆さんに自身の生活基盤であるこの地域についてあらためて思いを致していただく、という深謀遠慮が秘められた機会なのかもしれません。私も考えています。「愛知らしさ」ってなんだろう…。

田中 篤至 審査員

コロナ禍に振り回された昨年は「ディスタンス」を強調するような応募作品もありました。今年は全体的に少し作風が明るくなったのかな、と感じました。世相よりも、愛知の名産品や風景、祭りなどをもう一度正面からとらえ、デザインに落とし込んだ作品が多かったように思います。同じ題材であっても、色彩やデフォルメの方法、表紙としての全体構成には個性があり、力作ぞろいの難しい審査になりました。

グランプリ作品講評

伊藤 勇吉 審査員

私は、今回グランプリの作品は直ぐに決まりました。他の審査員の中にも、私と同じ作品に満点を入れている方もいらっしゃいました。個性的なイラストレーションで愛知県を表現し、今までにない新しい感覚の表紙です。ネオクラシック的な感覚のような表現はとても印象的で何気に楽しい。個性的でグランプリにふさわしい作品と思われます。

佐藤 直樹 審査員

この作品の最大の魅力は「イラストレーションの表現力」です。自由闊達に描かれた線によって表現されたモノたちは、大胆なデフォルメが施されていますが、画面全体が雑然とした印象に陥ることなく、活き活きとした生命力とおおらかなユーモアに溢れています。作者の洒脱なセンスと高い技術が遺憾なく発揮された秀作であると評価します。

田中 篤至 審査員

曲線的にデフォルメされた個々のパーツ、全体の色味を抑えつつも、はっきりと「愛知らしさ」を強調する全体の構成・デザインは秀逸でした。画面の上から「ぐいっ」と伸びてシャチホコをつまむ大きな腕は、ユーモラスで見ると引き付けます。絵本のような、漫画のようなまとめ方が「うまい」と感じさせました。